

## （抄録）

研究課題名：民俗芸能の社会構造に関するスポーツ人類学的研究

ー獅子舞の伝承と地域の文化ツーリズムに着目してー

研究代表者名：松本彰之

### 1. 研究の目的

本研究の目的は、国内の大型獅子による獅子舞の活動を対象として、それらの伝承とそれらをめぐる地域の文化ツーリズムとの関連に着目し、人類学的方法によって、伝承との関連の実態を組織構造的に明らかにすることである。

### 2. 研究の方法

獅子の活動と地域の観光化において、自治体や商工会等、獅子の担い手を支える側の事実をインタビュー等のデータで収集し検討する。さらに、地域の活発化を目論んで行われた地域の観光化に関する施策や人びとの経済状況や産業の変化を調査する。各地区の地域特性や特色と全体像を掴み併せて比較検討することで、両地区の社会構造の背景に迫る。

### 3. 研究の結果

鼎地区の屋台獅子は、地域の産土神へ奉納する地域芸能の獅子舞が、部落毎に行なわれる間に相互に競い地域の地場産業を活用して大型化した。この屋台獅子を観光資源として地域の活性化を目指す動きが本格的に始動し始めたのは、旧鼎町と飯田市とが合併した時期で、これは、市内で鼎地区の人びとのアイデンティティの象徴となったことを意味する。同時に、観光資源として積極的に活用しようと「南信州獅子舞フェスティバル」の開催が始まった。

砺波市では、2015 年、獅子舞連絡協議会が発足し、全国に獅子舞の魅力の発信を開始した。地域の観光資源化する取組み、「獅子魂」事務局の発足により獅子舞のプロジェクトに加え地域貢献を行なった。さらに、「獅子舞マップ」と作成し、祭りも巻き込み観光資源とした。

### 4. 考 察

獅子は、地域を守る意志の象徴としての機能をもつことが明らかとなった。鼎地区において獅子舞は、地域の人びとのものとの大前提であり、それを観光化に用いるとのスタンスで

あった。一方砺波市でも、獅子は地元の宝として各部落に獅子舞があり、部落の獅子舞として熱意を持って、力強く伝承されてきた。その芸能としての熟成度の高さから、砺波の獅子は、観光資源としての活用を早期に目されてきたといえるだろう。

また、砺波市の人びとからは、「他市の獅子舞の方が華やかで、盛んである」等の声が聞かれ、鼎地区の人びとの大半の「わしらが一番」という声と対照的であった。これが示す意味は、本研究では明らかにできなかった。

しかし、どちらも熱い情熱を持って、コロナ禍においても観光資源としてのそれぞれの大切な獅子舞に誇りをもって披露する場として、活用を進めていることは間違いない。